

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援センター さくらんぼ園

公表日 2026年2月21日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	3	基準以上の子ども3人に1人の職員を配置し、職員個々の動きを工夫して対応している。	保育士数が不足気味の時や、肢体不自由の子どもがいるグループで保育士の負担が大きかったり保育士の人員増が必要と考えている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17		子どもに分かりやすい空間にできるよう、水筒掛けや帽子入れは移動できるものにしていく。	子どもの発達保障を考えると、子ども達の動きに負荷がかからない状況よりも、少し負荷をかけていく環境も良いと考える。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	1	毎日掃除をしているため、きれいだが、ロッカーの上がすぐ物置状態になるため使った物はすぐ片づけるようにしている。	時々、ほごりがたまっていたり、整頓されていない時があるので、一人ひとりの意識が大切である。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	1	絵本広場のほら穴は子どもが落ち着く環境になっている。子どもが1人になれる部屋はないが時々に応じてグループができる環境はある。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	16	1		目標設定はできて、振り返りができていないことがある。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	1	面談などで保護者の意向を聞くとともに評価表や、行事の感想文、日頃の連絡ノートでのやりとりの中で改善につなげられている	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17			もっと職員の意見を聞いていきたいと考えている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	6	行政監査等による指導結果については速やかに改善に努力している。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17		医師や発達相談員による法人内部の研修や、外部の各種研修にできるだけ参加するようにしている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	16	1		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17		職員間の日々の話し合いや保護者との面談により課題やニーズを分析した上で作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	1	一人ひとりの子どもにとって、どのような対話や関わりが成長につながるのかを常に考え話し合っている。	共通理解はできているが、作成したものを確認し合える機会が少なく、十分でないところがある。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17		計画を共有し、常に園児一人ひとりにとってどうするかを話し合い連携している。	担当のグループの子どもの支援目標は理解しているが他のグループの子どもの支援目標はわからない所もある
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17		子ども達一人ひとりをよく観察し、保育士間の話し合いと、医師、発達相談員、理学療法士等との連携を大事にして意見を頂いている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17		日々のカンファレンスの中で、「本人支援」発達支援に重きを置くことが多いが、「家族支援」「移行支援」にも取り組んでいる。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	16	1	グループミーティングで活動を考え、全体の話し合いで、もっと深いものにして、立案している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	1	グループミーティング等で今の活動で良いかの確認や、前回とは違うものを楽しめるよう話し合って作成している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17			ミーティングを行い一日の流れなどの予定を全員が把握している。その日出勤していない職員にもわかるようにノートに記録している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17			ミーティングを行い、振り返りや反省を行い、共有するとともにその日出勤していない職員にも分かるようにノートに記録している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17			保育日誌を作成するとともに、グループのノートも作り、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17			定期的に話し合い、支援計画に反映させている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	1		保健センターや相談支援事業所などいつでも連携できるように、常に連絡を取り合っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	3			さくらんぼ園から転園する場合は引継ぎを行い、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。子どもにとって、どのような支援が大切なのかを考え支援を行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17				言葉だけで共有するのではなく、きちんと資料を事前に用意して共有しているのでわかりやすい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	14	2			障害児保育運動連絡会の枠組みの中で、研修等を通じて連携が図られている。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	16	1			発達相談員や小児科医に園に来ていただき、カンファレンスや学習会を行っている。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	16	1			自立支援協議会子ども部会に参画し、研修会等に積極的に参加している。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	17				5歳児が地域の保育所と交流する機会を設定している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17				連絡ノートで子どもの状況を伝え合うとともに、保護者学習会やグループ懇談等を通じて情報共有している。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	1			子どもの発達について保護者学習会を開催したり、グループ懇談等を通じて支援を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	1			契約時に説明している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17				支援内容の説明を行い、同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17				連絡ノートに悩み事や質問が記入されている時は、ノートで返事をしたり面談をしている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	2	親子保育等の際に、保護者の出し物の依頼もしており、保護者同士の交流ができていると思われる。	働いている方が多いため保護者会を開催するのも難しくなっている。親子保育の中にもっと交流する機会を設けても良い。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17		日々の連絡ノートや面談の他、相談には逐一対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	1	毎月、さくらんぼだより及び行事予定のお知らせを発行している。	グループLINEを行事内容や予定の変更等の連絡に活用するよう改善する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	8	散歩や秋祭りの時に獅子舞と笛太鼓が園に来てくださり、地域との交流になっている。	コロナ禍を機に機会がなくなっていたので、今後、地域との交流の機会を設けるよう考えていく。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17		非常災害時等対応マニュアルを策定し、毎月、避難訓練を実施している。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、訓練を実施している。	
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16		入園時に確認している。	
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16	1		
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16	1	安全計画を作成している。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	1		
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	17		毎日のミーティングでその都度話し合い、原因や対策を考えている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	16	1			